現地説明会資料

岡田古墳群　長塚古墳の発掘調査

2015（平成 27）年 2 月 7 日
朝 来 市 教 育 委 員 会
朝来市埋蔵文化財センター

１はじめに～岡田古墳群と朝来の王墓～

朝来市には、およそ 1600 か所の遺跡があります。その 9 割は「紀元後 2 世紀後半～ 7 世紀末に造られた盛り土のあるお墓（古墳）」です。とくに、ここ朝来市域には、古墳時代の但馬地域を代表する王墓が多く造られたことが知られています《城ノ山古墳（和田山町東谷）・池田古墳（和田山町平野）・茶すり山古墳（和田山町筒江）・船宮古墳（桑市）など》。しかし、これらの王墓は群をなしていません。それは、但馬の王が世襲でなかった可能性や、刻一刻と変化する社会情勢のなか、対外的に「但馬国」が存続するためにおさえないといけない地理的ポイントが変わっていった可能性を示すと考えられます。そんななか形成された、この岡田古墳群は朝来市域で唯一、王墓が集中して造られた遺跡群です。

２岡田古墳群以前～弥生時代の岡田地区～

岡田古墳群周辺を見わたすと、まず気づくのが眺望の良さ。東は夜久野高原、西は糸井地区へ続く谷、南には粟鹿山や市御堂・安井谷方面を望むことができます。かつてこの地に存在した弥生時代の高地性集落・大盛山遺跡もまた、この地理的な好条件を利用した砦でした。この遺跡は単なる戦争用の施設ではなく、聖地としての性格をそなえていたと考えられています。弥生時代の岡田地区は、大盛山を政治的な拠点とするムラが形作られていた可能性があります。

３岡田古墳群の形成

岡田古墳群は、右図に示した 5 基の古墳から成り立っています。いずれも「横穴式石室」という、遺体の安置と葬儀のための空間があると考えられています。ただし、埋葬施設の発掘調査を行っていないため、不明点が多いのが現状です。これまでに見つかっている埴輪の形態的な特徴から、【岡田 2 号墳（5 世紀後半代）➡長塚古墳（5 世紀末）➡小丸山古墳（6 世紀初め）】の順に造られたことだけが分かっています。